



# FDKの「ニッケル水素電池」

FDKでは手軽に購入できて利便性の高い使いきりの電池であるアルカリ乾電池とともに、充電して繰り返し使えるニッケル水素電池を製造しています。

ニッケル水素電池は同じ充電電池である鉛蓄電池、ニカド電池、リチウムイオン電池と比べて環境負荷面や安全性に優れており、より環境に優しく安心してお使いいただける電池です。

(使用済み小型ニッケル水素電池はリサイクルされ、貴重なニッケルやコバルト、希土類などを分離、精製し、再利用されています。)

FDK製のニッケル水素電池(小型)は世界中のお客様に使われていて、世界No.1\*<sup>1</sup>の生産シェアを誇っています。

スタンダードタイプでは、自己放電しにくく、フル充電しておけば1年後で約90%、10年後でも約70%の容量が残っており、長期間保管していてもすぐに使えます。

マイナス20℃の低温でも使用でき冬のアウトドアシーンで安心して使え、カメラのストロボなどの大電流機器用の高容量タイプや、リモコン・時計などのよく使う機器に適したスタンダードタイプなど、お客様のニーズに合わせた製品を提供しています。

またニッケル水素電池の繰り返し使えてリサイクル性も優れているという特長だけでなく、その製造拠点であるFDK高崎工場では、使用する希少金属量の低減や製造工程から発生するニッケルなどの回収材料の再資源化、さらには太陽光で発電した電気を工場出荷時の初期充電の一部に利用するなど、省資源、省エネルギー、環境負荷低減の取り組みに効果を上げています。

\* 1:2015年実績。富士経済発行「2016 電池関連市場実態総調査 上巻」より



## 太陽とツナガル電池

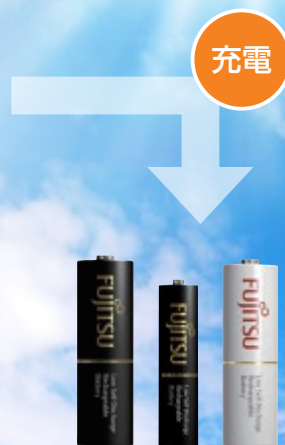
高崎工場で生産するニッケル水素電池は、繰り返し使えるだけでなく、太陽光で発電した電気を工場出荷時の初期充電の一部に利用しています。

まさに「**太陽が詰まった電池**」です。

高崎工場 全景



屋上設置の太陽光パネル



高崎工場での太陽光パネルによる発電量およびCO<sub>2</sub>削減量(2016年1月~12月)

発電量

146.85MWh

CO<sub>2</sub>削減量

83.7t

\* 2:富士通グループでのCO<sub>2</sub>排出係数:0.570(t-CO<sub>2</sub>/MWh)より算出。